



TITLE:

<研究・技術報告>和歌山県沿岸におけるアカメの採捕記録

AUTHOR(S):

荒賀, 忠一; 田名瀬, 英朋

CITATION:

荒賀, 忠一 ...[et al]. <研究・技術報告>和歌山県沿岸におけるアカメの採捕記録. 瀬戸臨海実験所年報 1987, 1: 59-61

ISSUE DATE:

1987-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/178801>

RIGHT:

和歌山県沿岸におけるアカメの採捕記録

荒 賀 忠 一・田 名 瀬 英 朋

Record of the centropomid fish, *Lates japonicus*,
from the coast of Wakayama Prefecture

Chuichi Araga and Hidetomo Tanase

アカメ *Lates japonicus* Katayama et Taki はスズキ目 Perciformes スズキ亜目 Percoidei アカメ科 Centropomidae に属する大型魚で、体長 1 m を越える。一見ヒラスズキ *Lateolabrax latus* Katayama に似ているが、それよりも体高が高く、尾鰭後縁が丸く、眼が赤い。成魚の体はほぼ一様に暗灰色であるが、幼魚では暗褐色の地色に不規則な黄色帯がある。その希少性のゆえに、「幻の魚」として著名である。

日本産のアカメは従来、東南アジアからオーストラリアに産する *Lates calcarifer* Bloch と同一種にされていたが、背鰭と臀鰭の棘長・体高・体長比・鱗数・鰓耙数などの形質でそれとは異なり、*Lates japonicus* という別種にされた (Katayama and Taki, 1984)。本種の産地としては、高知県四万十川及び宮崎県大淀川の河口域とその周辺の沿岸域が有名だが、そのほかにも徳島県海老ヶ池 (紀伊水道に面した汽水湖で、かつて幼～成魚を多産した：八木, 1980 a)、浜名湖 (幼魚の記録：宮崎大学赤崎正人教授の私信による) など採捕例がある。

琉球列島には近縁のアカメモドキ *Psamoperca waigiensis* (Cuvier) を産するが、今のところアカメの記録はない (吉野・西島・篠原, 1975 及び琉球大学吉野哲夫講師私信)。四万十川や大淀川にこの幼魚が遡上することから、アカメの産卵場は高知県南部から宮崎県にかけての沿岸水域と推定される。これが

正しければ、また上記の情報から、和歌山県沿岸にこの魚が分布していても不思議ではない。富田川や日置川 (図 1) の河口域での聞き込み調査では、「モス (ヒラスズキの地方名) より太い大魚が跳ねるのを見た」、「巨魚に網を破られた」など、それらしい話は聞くものの、実物は確認されていなかった。

1984・85の両年に、和歌山県沿岸から4個体が採捕されたので、それらを簡単に報告する。

1. 全長 568 mm, 体重 2.7 kg
2. 全長 695 mm, 体重 5.3 kg (写真 1)

この2個体は1984年6月21日に、田名瀬が白浜漁協富田浦支所の活魚生簀で見つけたもので、数日前に西牟婁郡周参見町里野地先のつぼ網 (小型定置網) で漁獲された。白浜水族館へ引取ったが、捕獲時に受けた体表の損傷が著しく、すぐに死亡した。両個体の計測値は表1の通りで、諸形質は片山・多紀 (1984) の原記載によく一致した。

3. 全長約 500 mm.

1984年7月3日、湯浅湾の小型定置網に入ったもので、まだ幼魚の斑紋を止めていた (写真 2)。この若魚は和歌山県立自然博物館が引取り、現在も同館で飼育・展示されている。

4. 全長 790 mm, 体重約 8 kg.

1985年10月8日、富田川河口で田辺市吉田漁具店の玉置薫氏が、ルアーで釣り上げたものの (写真 3)。すぐに食用に供されたため、残

念ながらこの個体の測定はできなかった。

以上のように和歌山県沿岸でもアカメの生息が確認されたわけであるが、1～3の個体の採捕地点が、アカメ本来の生息域とされている汽水域から外れていることは興味深い。幼魚には遡河習性があり、淡水での飼育例（八木，1980 b）も多いが、若魚期以降の生活圏は淡水～汽水域に止まらず、沿岸水域のかなり広い範囲に及ぶものと考えられる。

また、1・2の採捕者である里野のつば網

業者、南晶治氏によれば、アカメの入網はこれが始めてではなく、これまでも何度か梅雨期前後に漁獲があったという。湯浅のつば網業者も同様の経験を述べている（入江，1984）。以上から、これまでも県下各地でかなりの数のアカメが漁獲されていたが、正体不明のまま地元で処理されていたと考えられ、和歌山県沿岸のアカメは案外「幻の魚」ではないのかもしれない。

おわりに、標本入手の便宜をいただいた白

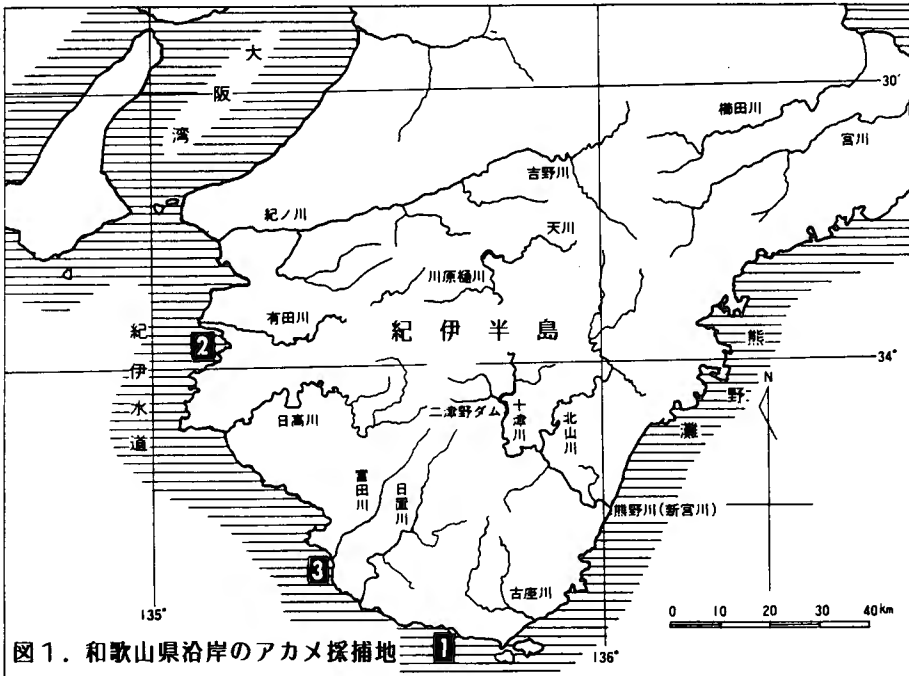


図1. 和歌山県沿岸のアカメ採捕地

1：里野，2：湯浅湾，3：富田川口

表1 和歌山県産アカメの測定値 ()内は体長に対する%

標本			標本		
形質			形質		
SMBL-F 84041			SMBL-F 84041		
SMBL-F 84042			SMBL-F 84042		
背鰭条数	VII-I, 11	VII-I, 11	吻長	33(6.9)	35(6.0)
臀鰭条数	III, 8	III, 8	眼径	20(4.2)	21(3.6)
胸鰭条数	16	16	両眼間隔	24(5.0)	31(5.3)
	2 + 1 + 6	2 + 1 + 7	尾柄高	69(14.3)	81(14.0)
側線鱗数	62	62	背鰭第3棘長	82+(17.2)	90+(15.5)
全長(mm)	568	695	背鰭最後棘長	22(4.6)	34(5.9)
体長	477	580	臀鰭第1棘長	19(4.0)	21(3.6)
頭長(mm:%)	168(35.2)	184(31.7)	臀鰭第2棘長	32(6.7)	40(6.9)
体高	165(34.6)	196(33.8)	臀鰭第3棘長	38(8.0)	38(6.6)
体幅	80(16.8)	103(17.8)			

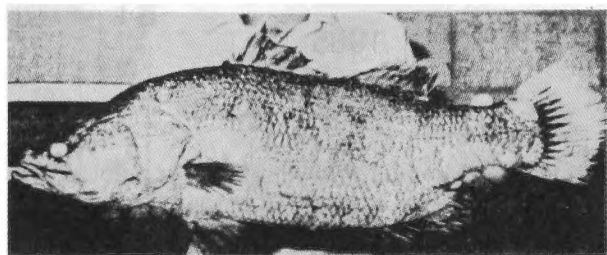


写真1 里野産アカメ，全長 695 mm
(紀伊民報社 谷上和貞氏撮影)



写真2 湯浅湾産アカメ，全長約 500 mm
(和歌山県立自然博物館提供)



写真3 富田川河口産アカメ，全長 790 mm
(吉田漁具店提供)

浜漁協富田浦支所，貴重な情報を提供された宮崎大学赤崎正人，周参見町南晶治，田辺市吉田漁具店，和歌山県立博物館入江正己の各位に厚くお礼申し上げる。

参 考 文 献

入江正己 1984. アカメ (オトシブミ). 和歌山県立自然博物館だより, 2 (3): 7.

Katayama, M. and Y. Taki, 1984. *Lates japonicus*, a new centropomid fish from Japan. Japan. Jour. Ichthyol., 30(4): 361-367.

八木禧昌 1980 a. 幻の猛魚アカメ 5. 週刊釣りサンデー 11月9日号: 40-42.

—— 1980- b. 同上 8. 同上誌12月21日号: 38-39.

吉野哲夫，西島信昇，篠原士郎 1975. 琉球列島産魚類目録. 琉球大学理工学部紀要理学編 第20号: 61-118.

